

3班 ワークショップ内容

- ・「協働」の原則
- ・次世代を見据えたまちづくり
- ・情報の共有 話し合いをして
- ・地域及び個人の個性を発揮できるようなまちづくり
- ・情報が細かく伝わるまちづくり
- ・子どもを産みたいと思えるまちづくり
- ・中心地だけでなく、周辺も発展するまちづくり
- ・行政職員も一市民としてまちづくりを考える
- ・ハードよりソフトに重点を置いたまちづくり
- ・「参画」と「協働」でまちづくり
- ・市民が参加できる仕組みのまちづくり
- ・広い視野、将来の展望に立ったまちづくり
- ・市民/行政/団体 の役割と責務
- ・時間の経過とともに良くなっていくまちづくり
- ・間接民主主義に偏った行政からの脱却
- ・住民自治組織を定義化する
- ・地域自治区を存続させる
- ・合併してよかったと思えるまちづくり
- ・財政に関する情報公開
- ・予算にも市民が参画するまちづくり
- ・生活指標にもとづくまちづくり
- ・住民投票をより自由に出来るような制度
- ・安全・安心のまちづくり
- ・防災・防犯に強いまちづくり

発表より補足

- ・最初からグルーピングすることは考えず、まちづくりに必要なことをフリーに出し合い、箇条書きにした。ここでは普通に考える建設的な書き方に統一した。
- ・反対の意見は、これらの裏返しに出ていた。
- ・最終的 14市町村が合併してよかったと言えるまちづくりを目指す
当面のまちづくりの大切な考え方
- ・その手法として、今私たちはどんな暮らし向きなのか、全国でどんな位置にいるのか、生活の実感として、指標を見つめながら狙っていく。
- ・そのときに、私たち一人ひとりがどのように参画していくか。
- ・今は十分な参画とは言えない。これからはもっともっと参画できる方法を考えた方がよいまちづくりに必要なのではないか、ということになった。
- ・この先自治基本条例が出来上がっていくが、そのときに専門家にお任せするが、私たちが理解できるような言葉で、日頃話している言葉で仕上げていきたい、という意見もあった。